

DEC 2010

Vol.

5

KIZUNA.5

近畿大学医学部 附属病院 広報誌

きずな



理念

患者本位の開かれた病院として、
安全で質の高い先進医療を提供します。

基本方針

1. 特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
2. 教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
3. 南大阪における基幹病院として地域医療に貢献します。
4. 働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。

発刊にあたって

近畿大学医学部附属病院 病院長 工藤 正俊

近畿大学医学部附属病院広報誌「きずな」第五号をお届け致します。

「きずな」という名前が示す通り、この広報誌は近畿大学医学部附属病院と患者さま、ならびにかかりつけの先生方の三つの輪が固い「きずな」で結ばれることを願い作られたものです。私の考える良き病院とは、「**患者さまに開かれた、患者さま中心の、患者さまに満足**していただける病院」であると考えております。

これからも当大学病院の優秀な人材により、世界的に誇れる医療レベルで患者さまの診療に誠心誠意尽くさせていただきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

この冊子が、皆さまのお役に立てることを願ひまして、第五号のご挨拶とさせていただきます。



C o n t e n t s

発刊にあたって	P.01
最新情報	P.02
各診療科の紹介（血液内科）	P.07
各診療科の紹介（皮膚科）	P.08
基礎系教室の紹介（生理学Ⅱ）	P.09
中央臨床検査部だより	P.10
光学治療センターだより	P.11
総合医学教育研修センターだより	P.12
看護部だより	P.13
特集「新しく日本で導入されたワクチン」	P.15
第2回近畿大学緩和ケア研修会	P.17
大阪狭山市の名所めぐり 〈だんじり祭り、狭山神社〉	P.18
編集委員の紹介	P.19
分教室紹介	P.20
患者さま相談窓口 医療・福祉相談室	P.21
各診療科のご案内	P.22

《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

表紙写真：病院事務部 石田 博徳

大阪狭山市では毎年秋に「だんじり祭り」が行われています。2日目の夜には、金剛駅前各地区のだんじりが集結します。（金剛駅前東口ロータリーで撮影しました。）

■ 最新情報

第20回医学部・薬学部公開講座

2010年8月7日（土）の午後、医学部大講堂において第20回医学部・薬学部公開講座が開催されました。大勢の市民に参加して頂き、好評のうちに終了しました。昨年のインフルエンザの流行によって2回の開催が中止されたあとの久しぶりの開催でした。

今回は「心臓」をテーマとして医学部から2人の教授、薬学部から1人の講師を迎えての開催でした。講座参加者の多くは、大阪狭山市、富田林市、河内長野市、堺市の方で、例年どおり高齢者の方に多く参加して頂きましたが、今回の特徴として高校生の参加と、遠隔居住の参加者もみられました。

医学部心臓血管外科学教授佐賀俊彦による「心

総務企画課 杉原 照治

臓・大動脈の手術に挑む」では、心臓は再生しない臓器であるとの説明をしていただきました。また心臓を傷めない努力の必要性、動画を取り入れた、実践的な治療方法等のお話がありました。続いて循環器内科学宮崎教授による「プロフェッショナルな医師とは？」では、病院では個人としてのプロ、組織としてのプロが必要で、プロとは何かを宮本武蔵の武術を例に分かりやすい講義をしていただきました。最後に薬学部医療薬学科井上知美講師による「誰でもできる蘇生法」ではAEDを中心に“大切な人をたすけよう”と簡単な心肺蘇生法のお話がありました。いずれの講座も素晴らしいもので参加者からは多くの賛辞を得られました。



小児病棟で夏祭りをしました！



8月26日（木曜日）に小児病棟で夏祭りがありました。

夏祭り本番前の「ほいくの時間」にみんなで手作りのお神輿やはっぴを作って、雰囲気バッチリ！
巨大ミッキーやお店の看板も子ども達みんなで作りました。



さあ、お祭りの準備は
バッチリ！！

当日の朝から、みんなでお神輿をひいて

「今日は夏祭りだよ〜！」と各部屋にまわり、チケットをプレゼント。

赤ちゃんからお兄さんまで、たくさんのお友達が夏祭りに来てくれました。



出店には、栄養部の協力のもと、
 飴で作れる綿菓子機を使った「わたがし屋」が大好評でした。
 いちごやメロンなど好きな味の飴を選んで、
 調理師さん達が作った出来たてのわたがしを食べました。



ヨーヨーフリ



研修医の先生が
射的屋をしてくれました。



お部屋でも
楽しんだよ!



手作り魚つり
何が当たるかな?



風船もいただきました！
ありがとうございます、お兄さん。



保育士お手製
ジャンボスマートボール



小児病棟では行事や日々の遊びを支援してくれる
 ボランティアの方を募集しています。

※写真掲載については本人もしくは保護者の許可を得ております。

近畿大学医学部附属病院における高精度放射線治療



西村 恭昌

近畿大学医学部附属病院、がんセンター長
放射線腫瘍科、診療部長

近畿大学医学部附属病院は、がんを切らずに治す最先端の放射線治療が実施できる施設です。放射線治療は、放射線腫瘍科の医師、中央放射線部の診療放射線技師、がんセンター放射線治療部医

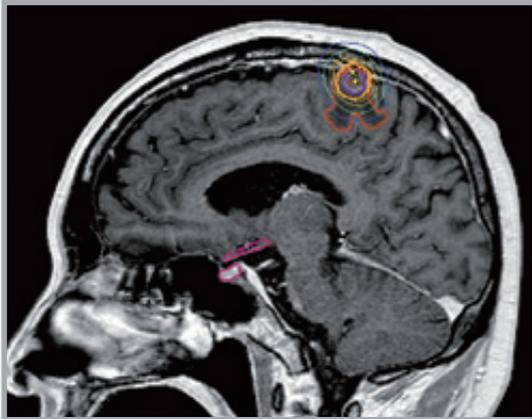
学物理室の医学物理士、放射線科看護師、クラークさんなどでチーム医療を行っています。当院で行っている高精度放射線治療について紹介します。



1) 定位放射線治療（ピンポイント照射）

定位放射線照射とは小さな領域（腫瘍）に対して細い高エネルギー放射線ビームを用いて線量を

腫瘍に集中的に照射する技術です。正式な呼び方ではありませんが「ピンポイント照射」と呼ばれ



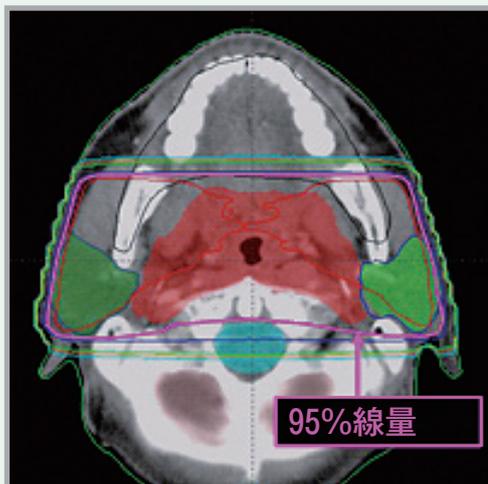
ることもあります。線量を集中的に照射するために、ターゲットを正確に固定し、そのターゲットにいろいろな方向から高エネルギー放射線を正確に集中させることによって、周辺の正常組織への照射を可能な限り減少させ、かつ腫瘍（左図のオレンジで囲んだ部分）への照射線量の増加を狙う治療法です。転移性脳腫瘍や早期の肺癌などにこの治療法が行われ、良好な治療成績が得られています。

2) 強度変調放射線療法 (IMRT ; intensity modulated radiation therapy)

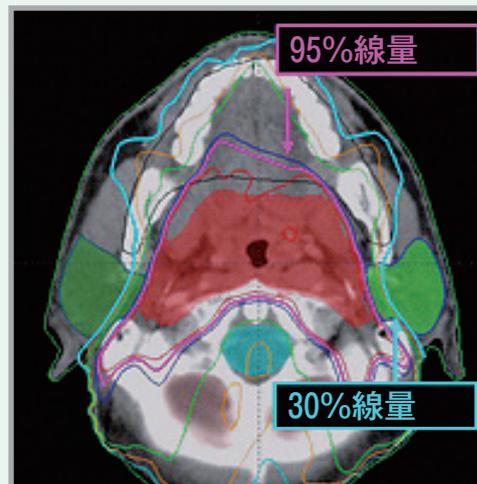
IMRT は先進的な照射技術で、放射線ビームの強度が均一である従来の放射線治療とは異なり、IMRT では照射ビームの強さを自在に変調（不均一化）させます。病巣や周囲のリスク臓器（下図の赤で塗られた部分）の形に合わせた線量を照射できるため、正常組織への影響を最小限に保ちつつ、腫瘍に対しては高線量照射が可能となります。このため IMRT では治療成績の向上と同時に放射線治療に伴う合併症を減らせるようになりました。図に従来の左右対向2門照射と IMRT の線量

分布を示しますが、IMRT では緑色の耳下腺への線量を減らせるため、照射後の唾液分泌の低下を防げます。

IMRT は先進医療を経て、平成20年から頭頸部腫瘍、中枢神経腫瘍、前立腺がんなどに対して保険適応となりました。近畿大学医学部では平成12年から IMRT を開始し、これまで多くの治療経験があるため、全国から患者さんが集まっています。



左右対向2門照射

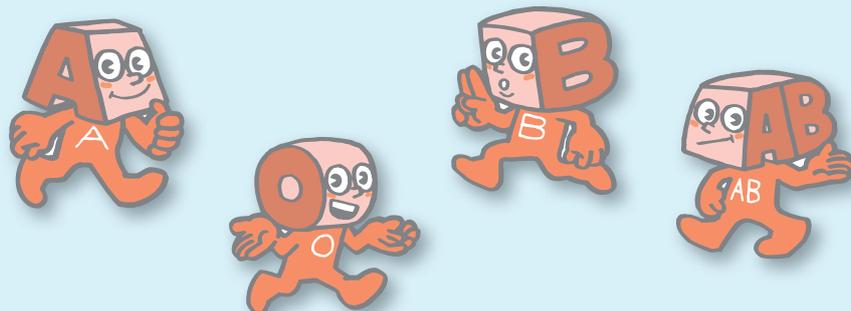


強度変調放射線療法
IMRT

血液内科

血液内科は造血器腫瘍、造血障害、凝固異常症などの診療を担当し、造血幹細胞移植術や分子標的療法を取り入れた積極的な治療により優れた治療成績をあげております。当科では造血器腫瘍、後天性免疫不全症などについての基礎研究や保険未承認薬の臨床治験、エビデンス構築のための臨

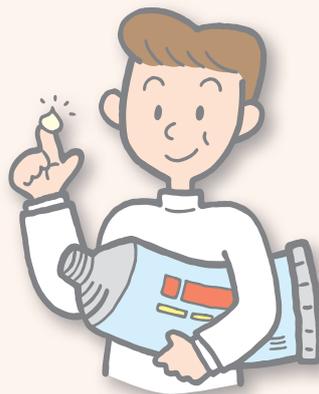
床研究を行い、わが国の血液学のリーダー的役割を果たしてまいりました。また、信頼性の高いエビデンスに基づき、しかも患者さまの立場にたった思いやりのある医療の実践を常に心がけております。



皮膚科

頭から足先まで全身の皮膚にできる病変を担当しています。皮膚は範囲が広い上に、外見上の諸問題を伴うため、細心の注意を心がけるようにしています。一般診療に加え、乾癬や皮膚外科などの各種専門的診療も充実しており、高度かつ最新

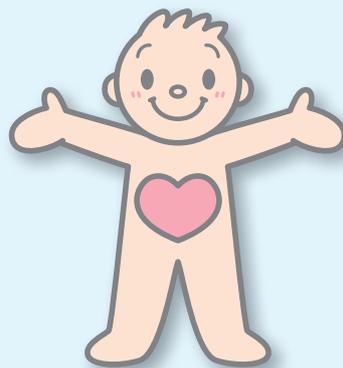
の診療を提供しております。さらに、レーザー、光老化、女性の各専門外来では光学医療機器を数多く備え、当院でしかできない最先端の医療で多くの患者さまに満足していただいております。



私たちの体の隅々まで血液が絶え間なく流れています。生きて行く上で必要な酸素や栄養素を運び、代謝された老廃物やCO₂などを組織から体外へ排出します。このメカニズムができあがるまで、進化の過程で巧妙な仕組みが組み入れられました。結果的に血液が「サラサラ」がよいのですが、そうでなくなると心筋梗塞や脳卒中などを引き起こします。私たちの研究室ではそれらの特効

薬を開発してきました。

さらに色々な病気で障害を受けた後、治癒する際に血液の中のプラスミノーゲンという蛋白が非常に重要であるということも明らかにしました。ES や IPS などを使用した実験も行い、病気で障害を受けた臓器の機能を回復させる研究を行っています。



■ 中央臨床検査部だより

朝の採血とその前後における検査部の様子を紹介します。

午前7時に早出勤務の臨床検査技師（技師）が出勤。おはようございます！



写真1



写真2



写真3

午前7時から、測定機器の準備を行います（写真1）。これは、臨床化学検査項目（BUN, TP, GLU など）を測定する機器です。毎日、患者さまの検体を測定する前に、精度管理（毎日正しい検査値が測定できるかを確認）をします。また、一方、別の技師は、病棟で採血された検体を回収

します（写真2）。3名の技師が回収に各病棟に行きます。午前7時30分頃からは、病棟で採血された検体の測定を開始します（写真3）。感染防御対策で、検査中は手袋をして業務します。自分の体は自分で守ります。



写真4



写真5



写真6

外来患者さまは午前7時30分頃から採血順番のカードを取られます（写真4）。順番待ちの様子です。宿直技師が誘導に当たります。午前8時には受付事務員も出勤（写真5）。午前8時25分から外来採血開始です。8台の採血台で、ベテランの技師と看護師が採血を担当します。採血さ

れた検体は、速やかに写真3と同じ機械で測定され、外来診察前の結果は、各医師のコンピュータ端末に採血後約1時間で伝達されます。

このように患者さまを中心とした検査室運営に、検査部は日夜努力しています。

■ 光学治療センターだより

昭和50年、医学部附属病院の開院当初から内視鏡部は中央部門の一つとして発足しました。開設当初は現第一内視鏡室のみでしたが、検査件数の増加に伴って、昭和59年上部内視鏡検査専用の旧第二内視鏡室を増設、平成8年に第一内視鏡室前の現第二内視鏡室に移転しました。更に平成22年10月組織変更により、光学治療センターと名称変更されました。

大学附属病院ですが、地域中核病院でもあるため二次検診や通常の内視鏡検査から緊急内視鏡、

更に高度先進内視鏡医療まで幅広い分野での内視鏡診療を行っています。

光学治療センター所属スタッフは工藤センター長他医師2名と内視鏡技師資格を修得した4名を含む専任看護師10名、事務職常勤1名、非常勤2名、補助員3名です。

上部消化管、小腸、大腸、胆・膵そして気管支内視鏡検査及び治療を、消化器内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、外科の協調体制で行っています。



総合医学教育研修センターだより

臨床研修は、「診療に従事しようとする全ての医師は、臨床研修を受けなければならない、これに併せて、臨床研修医は適切な指導体制のもとで、医師としての人格を涵養し、病める人を全人的に診る事ができるように、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付ける」という、医師の育成を目的としています。このため、厚生労働省より指定を受けた病院が臨床研修指定病院となり、近畿大学医学部附属病院は、臨床研修制度開始時より基幹型臨床研修指定病院の認定を受け、臨床研修医の育成に当たっています。

近畿大学医学部附属病院での臨床研修は、平成20年度までは臨床研修センターにて運営していましたが、より効果的な研修支援を行なうために、平成21年4月に総合医学教育研修センターが新設され、卒後臨床研修全般を担当することになりました。

また、近畿大学医学部附属病院は、平成22年5月1日付けでNPO 法人卒後臨床研修評価機構の定める認定基準を達成している病院として、4年間の施設認定を受けました。



■ 看護部だより

看護師は、各科病棟、救命センター、手術室、各科外来、ER部、中央放射線部、通院治療センター、透析室、光学治療センターにおいて、患者さまによりよい看護の提供に努めております。

今回は、救命救急センターを紹介いたします。



病棟の紹介 救命救急センター（CCMC）

看護長 北本 智美

救命救急センターは、南大阪医療圏唯一の三次救急として年間750名の救急患者さまが搬送されております。そして、365日24時間体制で救急医療・看護を提供しております。看護スタッフ

65名は、生命の危機的状況の中、救命に関する専門的な知識・技術を持ち供え、ときには時間と戦いながら、日々看護に奮闘しております。

<看護長からの一言>

クリティカルな能力を必要とされる部署ですが、患者さまの「命を救い、支え、看取る」というどの場面に遭遇しても、自分だったら・・・自

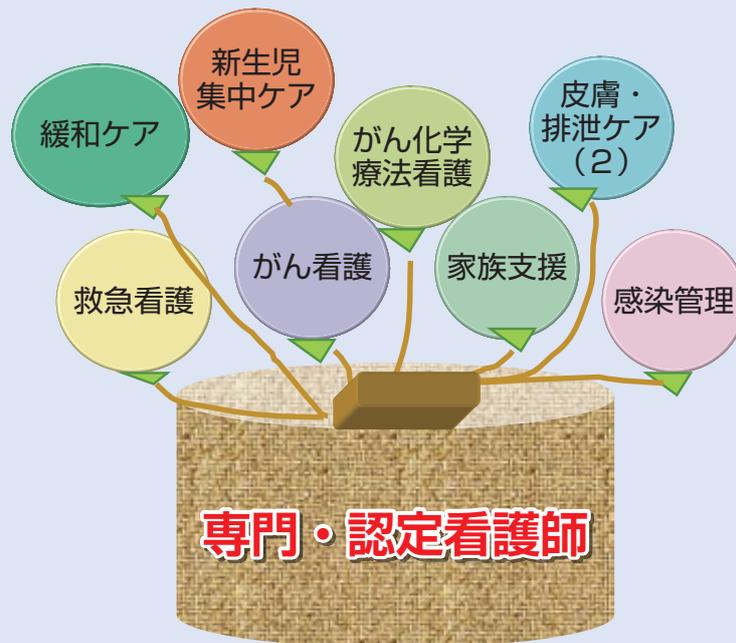
分の家族だったら・・・と立場を置き換え、その時その場で精一杯の看護ができる人間性を大切にしております。



■ 看護部だより

当院には、スペシャリストナース（専門看護師）2名、
エキスパートナース（認定看護師）7名が
それぞれの分野の役割を果たすべく日々活動しております。

今回は、救急看護認定看護師を紹介いたします。



救急看護認定看護師の紹介

救命救急センター 救急看護認定看護師 野見山 泰子

救急看護と聞いてみなさんはどのような印象を受けられるでしょうか。

患者さまを取り巻く全ての環境が緊迫した状況であることは言うまでもありません。

私は、看護師になってから救命救急センターに所属し、2009年救急看護認定看護師資格を取得後も救命救急センターに所属しております。救急看護歴は長いのですが、まだまだ未経験のこともたくさんあります。救急看護の場面はどこにでも存在し、いつ誰がその対象となるかわかりませんが、その場の状況判断で患者さま・ご家族に合った最大限の看護の選択、支援が実践できるように日々努力しています。また、根拠を踏まえた看護

を実践することで教育にもつながる実践モデルとなり、救急看護を実践する看護師向上を図りたいと思っております。また、認定看護師としていろいろな方との関わりを大切にしていきたいと思っております。



特集「新しく日本で導入されたワクチン」



講師 いわたが たかし
岩永 賢司

近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科

1 | 肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌による感染症は頻度が高く、髄膜炎、肺炎、菌血症、関節炎、骨髄炎などをおこし、重症化しやすいことも知られています。また、多くの抗菌薬に耐性を示す多剤耐性肺炎球菌が増加しており、問題となっています。高齢者における肺炎の原因菌第一位がこの菌であり、昨今の高齢社会を踏まえると、肺炎球菌感染症の予防が非常に大切なことが分かります。そこで登場したのが、肺炎球菌ワクチンです。肺炎球菌ワクチンには、「ニューモバックス®NP」と小児専用の「プレベナー®水性懸濁皮下注」の2種類があります。「ニューモバックス®NP」は、2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い者（1. 脾臓を摘出された患者 2. 鎌状赤血球疾患、あるいはその他の原因で脾臓の機能不全である患者 3. 心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏などの基礎疾患のある患者 4. 高齢者 5. 免疫抑制作用を有する治療が予定されている者で治療開始まで少なくとも14日以上の余裕のある患者）が接種の対象となります。一方、「ニューモバックス®NP」では乳児や低年齢児に対して十分な肺炎球菌感染に対する抵抗力が得られなかったのですが、「プレベナー®水性懸濁皮下注」はその欠点を克服し、本年2月に発売されたばかりの肺炎球菌ワクチンです。生後2ヵ月以上10歳未満の小児が接種対象です。このように、二つのワクチンはそれぞれ接種対象者が異なることに注意しなければなりません。

「ニューモバックス®NP」は、接種後5年以上経過すれば効果が落ちてくるので、「肺炎球菌による重篤な疾患に罹患する危険性が極めて高い者、および肺炎球菌に対する抗体が急激に低下する可能性のある者」を対象に、5年以上経過すれば再接種を勧めています。（詳細は日本感染症学会 肺炎球菌ワクチン再接種に関するガイドラインを参考にしてください）。



医学部講師 いのうえ のりひろ
井上 徳浩

近畿大学医学部小児科

2 | Hib（ヒブ）ワクチン

Hib（ヒブ）ワクチンはすでにお子さんが大きい方々にはあまり聞きなれない名称かもしれませんが、日本国内では2007年1月に承認され、2008年12月19日から小児に対する新しいワクチンとして始まった歴史の浅いものです。このワクチンの大きな特徴は、小児それも特に乳幼児期の疾患予防を目的としていることです。

ご存知のように、小児の病気のなかには発症から重症化まで速い経過をたどる感染症があります。そのなかでも重症化しやすい原因菌としてヘモフィルス・インフルエンザ菌b型があります。この菌は頭文字をとってHibと呼ばれ、これに対するワクチンがHibワクチンと呼ばれるものです。インフルエンザ菌b型による感染症については肺炎や中耳炎などさまざまな感染症があげられますが、このワクチンはとりわけ細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎に対して優れた予防効果を示します。

髄膜炎については細菌性髄膜炎とウイルスによる無菌性髄膜炎の2つがあります。このうち細菌性髄膜炎の場合には、治療が遅れた際に知的な障害や手足の麻痺などの重大な後遺症が残ってしまう場合もあり、重症になると命に関わる場合もあります。現在日本で発症する細菌性髄膜炎の約60%がインフルエンザ菌b型により、約30%が肺炎球菌によるものとされ、その多くは乳幼児です。

今では、Hibワクチンはアジア、アフリカを含む世界100カ国以上で導入され、92カ国で定期接種されているだけでなく、アメリカやイギリスなどをはじめとする国々ではこのワクチンによってHib感染症が激減したことを報告しています。日本ではまだ任意接種であり有料となりますが、自治体によっては接種に対して補助を出すような動きも始まっており、今後はもっと身近なワクチンになるかもしれません。いずれにしても、まだお子さんが小さい場合、あるいはこれからお子さんが生まれてくる予定のある場合に積極的な接種を考えていただきたいワクチンです。



准教授 わたなべ 洋

近畿大学医学部産科婦人科

#3 | HPVワクチン

1. 子宮頸がんの現状

子宮頸がんとは子宮の出口に相当する子宮頸部に発生する女性特有のがんで、子宮体部に発生する子宮体がんと比較して若い女性に発生する傾向があります。また子宮頸がんの5年生存率は年々悪化する傾向にあり（図1）、毎年数多くの女性の生命が奪われています。日本においては世界に類を見ない公費子宮がん検診システムがありますが、マスコミを賑わせた「がん検診無用論」あるいは「がん検診有害論」といった無責任な議論も影響し、検診受診者数は激減しているのが現状です。

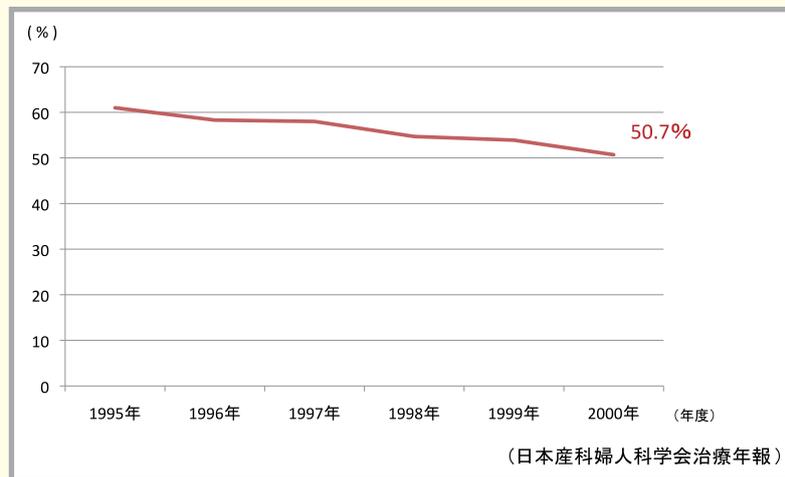


図1 子宮頸がん5年生存率の推移

2. 子宮頸がんとHPV

これまでの研究から子宮頸がんの発生について解明された事実が2つあります。1つめは、子宮頸がんはある日突然発生して死に至るわけではなく、「異形成」といわれる「前がん状態」を経て「がん」が発生すること、そして2つめは、この「異形成」の発生と「がんへの進行」には性交によって伝搬するヒト・パピローマ・ウィルス (Human Papilloma Virus: HPV) が密接に関連していることです。すなわち、子宮頸がんはHPVというウィルスの感染によって発生します。

HPVは現在100種類以上のタイプが判明していますが、子宮頸がんの発生に関係するタイプ (ハイリスクHPV) は16型、18型、31型、33型、35型、39型、45型、51型、52型、56型、58型、59型、68型の13種類とされており、特に16型と18型の2つのHPVが最も高頻度に検出されています。

3. HPVワクチン

子宮頸がんがHPV感染によって発生する事実が解明されてから、HPV感染を防止するワクチンの開発が進められてきましたが、2009年10月に子宮頸がんの発生に最も深く関与する16型と18型の2種類のHPV感染を予防するワクチンが厚生労働省の承認を得て12月から販売されることになりました。このワクチンは6ヶ月間に3回の接種が必要であり、接種費用の公費負担が行われている地方自治体もありますが、原則的に全額自費負担になります。またHPVワクチンは治療ワクチンではなく予防ワクチンのため、すでにHPV16型、18型が感染しているかたには予防効果は期待されません。従って性交経験のある女性の場合はワクチン接種前に、細胞診による子宮頸がん検診と共にHPV感染の有無を検査することが必要です。また現在のところHPV16型、18型以外のHPVによる子宮頸がんの発生は抑制されないため、ワクチン接種後も定期的な子宮頸がん検診を受診することが大切です。

HPVワクチンは子宮頸がん発生予防に有効な手段として期待されていますが、ワクチンの有効性に関する正確な情報を得て、ワクチン接種の利点のみではなく、効果の限界についても十分に理解したうえで接種が必要です。

第2回近畿大学緩和ケア研修会

第2回近畿大学緩和ケア研修会を終えて

緩和ケア室 原 聡

厚生労働省は、がん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標と掲げ、がん診療に携わるわれわれ医師が緩和ケアについての基本的な知識等を習得するための研修会が開催されるようになりました。がん診療連携拠点病院である当院では、昨年へ続き「第2回近畿大学緩和ケア研修会」を8月28、29日に看護学校の教室をお借りして開催しました。

医師33名の参加が予定されていましたが、最終的には31名となりました。内訳は院内19名、院外12名、うち開業医2名、勤務医29名でした。院内では腫瘍内科、消化器内科、メンタルヘルス科、歯科口腔外科、外科、腎臓膠原病内科、耳鼻咽喉科、小児科から参加いただきました。また、院外ではPL病院、済生会富田林病院、府中病院、吉川病院や医院・クリニックなどから参加いただきました。

ファシリテーターには院外から医師10名、看護師2名においでいただきました。

院内からファシリテーターとして、がん看護専門看護師1名、家族支援専門看護師1名、緩和ケア認定看護師1名、歯科医1名、薬剤師1名、臨床心理士1名、また事務局として医事課3名、がん相談支援センター1名、リハビリテーション部1名、

歯科衛生士2名、栄養部1名が参加しました。

研修会は、座学のみではなく、グループワークやロールプレイなどをとりいれて受講者も参加していただく形式になっています。プログラムは、緩和ケア概論にはじまり、がん性疼痛の評価と治療、がん性疼痛の事例検討のグループワーク、オピオイドを開始するときのロールプレイ、呼吸困難・消化器症状、気持ちのつらさ・せん妄の講義、コミュニケーションのロールプレイ、そして地域連携と治療・療養の場の選択についてのグループワーク、でした。28日は午後2時から開始し、奥野清隆副院長にご挨拶いただき、午後8時に第1日目を終了しました。第2日目は午前9時から開始し工藤正俊病院長から受講者の皆さまに修了証をお渡しして午後6時に全てを終了しました。2日間にわたる長丁場でありましたが、最後まで活発に参加いただき途中退席者もなく終了しました。写真は終了後の集合写真ですが、晴々したお顔やお疲れのお顔がみられます。

緩和ケア研修会ががん診療連携拠点病院においては要件の一つとなっています。今後も引き続き開催してまいりますので、是非とも参加いただきますようお願いいたします。なお、来年は6月18、19日に開催いたします。



大阪狭山市の名所めぐり 〈だんじり祭り、狭山神社〉

だんじり祭り

今年も10月の第2土曜、日曜日に大阪狭山市内の各地でだんじり祭りが行われました。

土曜日はあいにくの雨にも関わらず、狭山神社の近くでも、太鼓や笛の音色、威勢のいい掛け声とともに、力強い引き回しが行われていました。

だんじり祭りの由来は、五穀豊穡（ごこくほうじょう）への祈願して行った稲荷祭（いなりまつり）がその始まりと伝えられているようで、大阪、神戸、奈良など、関西一円で行われています。また「だんじり」の語源は、台を引っ張る様子や、台がじりじりと這うように動く「だいずり」が転

じたとする説など色々とおあるようです。

見どころは、地車の後輪を浮かせ、そのままの状態です。地車（だし）をクルクル勢よく高速で回転させる「ぶん回し」で、とても豪快で迫力があります！！ また、夜になると金剛駅前には5～6の山車（だし）が集結し、白、赤の提灯（ちょうちん）が灯された「灯入れ曳行」が行われ、とても幻想的な雰囲気味わえます。

関西一円で行われていますので、一度各地のだんじり祭りも楽しんでみてはいかがでしょうか？



狭山神社

狭山神社は狭山池とともに「大阪みどりの百選」の一つに選ばれている神社です。

狭山池を見おろす丘の上のきれいな社で、狭山の神は狭山池築造の以前からこの地の鎮守であったという伝承がありますが、南北朝時代の乱によ

り社殿が焼け、現在の社殿は室町時代に再建されたものと伝えられています。天照皇大神（あまてらすおおのかみ）と素盞鳴命（すさのおのみこと）が主祭神として祀られています。

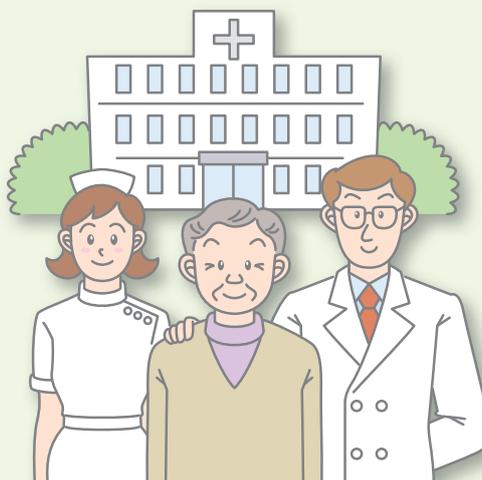


編集委員の紹介

近畿大学病院広報誌発行委員会を紹介させていただきます。平成21年度より、患者さまに近畿大学医学部附属病院を、「より身近に感じていただく」、「より分かりやすい患者さま本位の医療を提供したい」という職員全員の願いをこめて、年に2回広報誌を発刊させていただいております。患者さまと病院とのより良い信頼関係の構築を願って「きずな」と命名させていただきました。メンバーは、医師、看護師、さまざまな部門の技師、事務職員等で成り立っており、忌憚のない意

見を出し合いながら編集を進めております。コンテンツは、当院で行われている医療の最前線はもとより、患者さま本位の治療を実践するための各部署の取り組みを、わかりやすく紹介できるよう努力しております。今後も本誌が、患者さまと病院の架け橋的な役割となるよう、一層努力し、魅力ある内容を提供させていただく所存でございますので、皆さまからのご意見、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(文責 竹村 司)



■ 分教室紹介

大阪府立羽曳野支援学校近大附属病院分教室は、入院中の小・中学生が学習している学校です。本人・保護者の病気治療と学習空白という心配事のうち、学習面を担っているのが本分教室です。授業は、教室やベッドサイドで行っています。教員は、病棟や主治医・地域校との連絡を密にとり、

体調の把握・心の安定を図りながら、楽しく学習を進めています。教育相談も常時受け付けています。どのような事柄でも結構ですので、まずは一度、分教室に連絡して下さい。

写真は、子どもたちが、教室で学習している様子です。



TVを使った手洗い指導



小1～中3の学習風景

当院では、医療制度の相談、手続きの説明と患者さまやご家族の医療に対する意見や要望をお受けする患者さま相談窓口を設けております。

また、医療福祉相談室にて、ソーシャルワーカーが治療や療養の妨げとなる生活上の不安、心配事等をお聞きし支援いたしております。

患者さま相談窓口

場 所／2階医療相談・安全管理課

受付時間／平 日 9:00～17:00

土曜日 9:00～11:45



主な相談内容

- 交通事故に関する保険関係の相談
- 高額医療費の相談
- 診療記録等の開示に関する相談
- 公費負担医療制度に関する相談

- ◎生活保護 ◎特定疾患医療制度
- ◎小児慢性特定疾患医療制度
- ◎自立支援医療制度(更正医療、育成医療、精神通院治療)
- ◎労災保険制度 ◎公害医療制度

- その他当院に対する意見・要望

医療・福祉相談室

場 所／2階初診・再診受付横

受付時間／平 日 9:00～17:00

土曜日 9:00～11:45



主な相談内容

- 退院に関する相談、経済的問題に対する相談
- 社会保険・福祉制度に関する相談
- 心理的な問題の相談、社会復帰の相談



**ノースモーキング
ホスピタル宣言**

健康維持・増進のために、タバコのない病院を目指します。
皆様のご協力をお願いします。
病院長

院内および敷地内は全面禁煙です。

入院される患者さまには、禁煙に関する同意書を記入していただいております。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

《個人情報保護について》

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さまの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。

1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さまの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただくことがございます。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さまからの同意をいただくことしておりますのでご安心ください。
2. 当院では、患者さまの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。

各診療科のご案内

3 F	産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、麻酔科(ペインクリニック)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
2 F	循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液内科、腎臓・膠原病内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、漢方診療科
1 F	整形外科、放射線腫瘍科、放射線診断科

外来受付時間

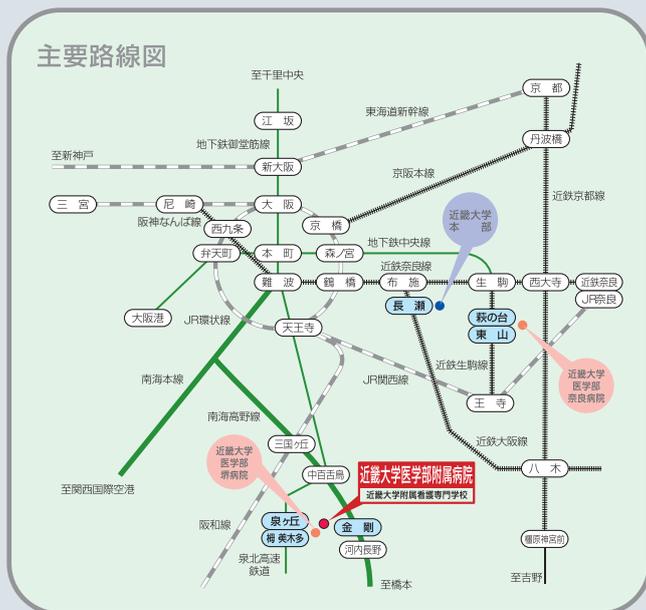
平日	土 曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 創立記念日(11月5日) 年末年始(12月29日～1月3日)
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		

※患者さまが当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、なるべく当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。

※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として5,250円(消費税込み)をご負担頂きます。

※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

アクセス



お知らせ

広報誌「きずな」のバックナンバーは、病院ホームページよりご覧いただけます。

アドレス

<http://www.med.kindai.ac.jp/>

- 1 近畿大学・医学部ホームページ ▼ **病院** をクリック
- 2 **附属病院** をクリック
- 3 広報誌 バックナンバー きずな をクリック

編集後記

広報誌「きずな Vol.5」をお届けいたします。今回は、本誌を編集している広報委員を紹介しています。このメンバーで、よりよい広報誌を作り上げようと、日々奔走しております。

今後も病院の知りたい情報など、皆様のご意見をお寄せいただければ幸いです。これからも「きずな」をよろしく願いたします。

発行日/平成22年12月1日 発行場所/近畿大学医学部附属病院
編集/広報誌発行委員会 竹村 司

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
TEL (072) 366-0221 (代表)
FAX (072) 366-0206

ホームページ <http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/>